

皇學館大学

かわの さとし  
河野 訓

皇學館大学 学長



2023年4月に河野訓学長が重任し、会員代表に就任した。学長の任期は2025年3月31日まで。

河野訓学長は1957年宮崎県生まれ。東京大学人文科学研究所印度哲学印度文学専攻博士課程中退。2000年東京大学より博士(文学)を授与された。文化庁宗務課専門職員を経て2000年皇學館大学へ。東京大学では仏典の漢訳を中心に仏教学を学び、文化庁宗務課では宗教学人法改正を経験した。皇學館大学では社寺や藩・県・山岳における神仏分離とそれに先立つ多様な神仏習合も研究の対象と

している。主要な著作としては博士論文を出版した『初期漢訳仏典の研究』等がある。日本印度学仏教学会賞等受賞。神道史学会代表。趣味はスポーツ全般で、今は三重県学生バレーボール連盟会長。  
皇學館大学は1882(明治15)年に伊勢神宮・内宮の林崎文庫に設置された皇學館を直接の起源としている。伊勢の神宮における長い神道研究の伝統を継承し、教育研究が進められている。変革のやまない現代社会の先々を読み、イノベーションを引き起こし、社会の中核となる人材を育てたい。

宮城学院女子大学

はせべ ひろし  
長谷部 弘

宮城学院女子大学 学長



末光眞希学長の任期満了に伴い、4月1日付で長谷部弘氏が新学長に就任した。任期は3年となる。長谷部学長は1955年福島県生まれ。1978年東北大学経済学部卒業後、同大学院経済学研究科に進学。その後東北大学経済学部助手を経て1985年に東北大学教養部講師、1993年に大学院国際文化研究科助教授、1999年に大学院経済学研究科教授として奉職し、2021年3月に停年退職した。東北大学名誉教授。

学の実態分析。代表的な研究の成果として、共同性の国際比較研究を扱った『近世村落社会の共同性を再考する』(2009)、長野県上田市旧上塩尻村における共同性の実態を徹底した史料調査に基づいて明らかにした『近世日本の地域社会と共同性』(2009)、『近世日本における市場経済化と共同性』(2022)など。  
宮城学院女子大学は137年の伝統を持つミッションスクールで、建学の精神をキリスト教の福音におく女子大学である。現代ビジネス、教育、生活科学、学芸の4学部を有している。

流通科学大学

ふじい けいご  
藤井 啓吾

流通科学大学 学長



中内潤前学長の任期満了に伴い、2020年4月1日付

で流通科学大学学長に就任、  
今般、私大連の規則変更に伴い、  
会員代表者に就任した。

1955年神戸市生まれ。

1979年京都大学法学部

を卒業後、日本長期信用銀行  
(現SBI新生銀行)に入行。

1987年米国ワシントン大  
学(州立)ロー・スクール修士  
課程を修了。

2001年流通科学大学  
助教授、2005年同教授、  
2012〜14年サービス産業  
学部長、2014〜20年副学  
長を歴任した。

専門は民事法。主な著書

に『国際ネゴシエーションと  
契約』(共著)などがある。

流通科学大学は開学以来  
「実学」を重視し、豊かな社  
会の実現に貢献できる意欲  
と能力を持ったビジネスパー  
ソンを育成してきた。

学生は、数多くの社会共  
創活動に取り組み、企業・地  
域・自治体とコラボしてそれ  
ぞれが抱える課題解決を目  
指して活動している。「ネア  
カ・のびのび・へこたれず」の  
精神で、学生一人ひとりが自  
らの夢を探し、育て、咲かせ  
る「夢の種プロジェクト」を展  
開中である。

天理大学

ながお ひなお  
永尾 比奈夫

天理大学 学長



本年度、天理医療大学と  
の統合により医療学部を新  
たに設置した天理大学は、4  
月1日付で国際舞台での経  
験豊かな新学長を迎えた。

永尾学長は、1964(昭和

39)年奈良県天理市生まれ。

ラグビーに勤しみながら天理  
学園で少年時代を送るが、15  
歳より米国の高校に留学、カ  
リフォルニア大学で宗教学を  
学び、さらに同大学サンタバー  
バラ校で修士号を取得した。

1990(平成2)年からは  
天理教の海外布教関係業務  
や海外信者子弟・子女の育成  
など、30年近くを専ら海外畑・  
人材育成畑の職務に従事し

た。同時に、天理大学非常勤  
講師として天理教学等を担  
当。2021(令和3)年、学校

法人天理大学専務理事とし  
て、天理大学と天理医療大学  
の統合を指揮し、さらには20  
24(令和6)年度天理大学改  
組の骨子を取りまとめた。

目下の地方私立大学の厳  
しい状況を受け止めつつも、  
「だからこそ、そのピンチを  
チャンスと捉えて、変革を遂  
行したい」と所信を表明し、  
「他者への献身」という天理  
スピリットを体現できるよう  
な若者の育成に全学が一丸  
となって取り組んでいきたい、  
と意気込みを語る。

東京女子医科大学

丸 義朗

東京女子医科大学 学長



本学は建学の精神「医学の蘊奥<sup>うんおう</sup>を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」とこれを具現化するための理念「至誠と愛」を全ての職員が遵守し、また卒業生はこれを継承していくという方針のもと、教育、研究、診療、経営を実践している。丸学長は1983年東京大学医学部卒業後、虎ノ門病院、東京大学病院、UCLA、東京大学医科学研究所を経て本学医学部薬理学講座教授・主任に2002年赴任した。学力・研究実力主義であったが、2016年副学長就任後には教育面、2019年学長就任以降は経営面にも力を

注いでいる。特に経営面においては岩本絹子現理事長の運営スタイルに大きな影響を受け、よりよい大学運営に尽力している。本学の決裁過程は健全であると感じている。人間つき合い、グルメ、フランス哲学が好きである。正義感が強く信念は曲げない。建学の精神や女性活躍推進法に則り、また繊細さや優しさなど女性の特性を賞賛しながら女性重視でいく。大学の研究力と病院力の向上に貢献したい。

主な著書『Inflammation and metastasis』(Springer, 2nd edition, 2021; 1st edition, 2016)、『がんをくすりですぐに治す』とは。(朝日選書 2007年)。

昭和女子大学

金尾 朗

昭和女子大学 学長



小原奈津子前学長の後任として2023年4月1日付で金尾朗教授が学長に就任した。

金尾新学長は1961年和歌山県生まれ。1985年東京大学工学部建築学科卒業、1992年同大学院博士課程修了、博士(工学)。昭和女子大学生活科学部生活美学科専任講師として着任。

1998年助教授、2007年教授、アドミッシンション部長を経て、副学長、環境デザイン学部長を歴任した。

専門分野は建築計画・都市計画であるが、環境デザイン学科で建築・インテリアデザイン

学科で建築・インテリアデザイン

ンコースとともにデザインプロデュースコースの教育も担当し、さまざまなプロジェクトに加わって活動している。近年は新潟県村上市でむらかみ育の竹灯籠まつりへの参加等まちづくり関連の活動を行う。

昭和女子大学は、グローバル、キャリア、プロジェクト学習に力を入れて現代の社会のニーズに積極的に対応しており、近年ではデータサイエンス教育などへの対応を行ってきた。教職員、学生一体となった教育環境をつくりながら、今後とも社会のさまざまな問題に取り組んでいくための教育を発展させていく。

**高橋進**(たかはしすすむ)

大東文化大学学長。'83東京学芸大学教育学部卒業。'85同大学院教育学研究科保健体育専攻修士課程修了。修士(教育学)。'23より現職。専門はスポーツ科学。

**津田葵**(つだあおい)

ノートルダム清心女子大学学長。ジョージタウン大学大学院言語学専攻博士課程修了(P.H.D.)。主著『言語の接触と混交』共生を拓く日本社会(共著)等。

**内村直尚**(うちむらなおひさ)

久留米大学学長。'86同大学院医学研究科生理系専攻博士課程修了。医学博士。同年同大学精神神経科入局。'07教授。'20より現職。睡眠医学専門。

**篠原聡子**(しのはらさとし)

日本女子大学学長。'81日本女子大学住居学科卒業後、'83同大学院修士課程修了。'97より日本女子大学で教壇に立つ。'20より現職。'86より、空間研究所を主宰。

**真銅正宏**(しんどうまさひろ)

追手門学院大学学長。'92神戸大学大学院文化学研究科文化構造専攻博士課程単位取得退学。博士(文学)。'20より現職。主

著『匂いと香りの文学誌』など。

**大西晴樹**(おにしはるき)

学校法人東北学院院長、東北学院大学学長。'83神奈川大学大学院経済学研究科博士課程満期退学。博士(経済学)。明治学院大学学長、明治学院学院長を経て、'19より現職。

**松田美佐**(まつだみさ)

中央大学文学部教授、'96東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。主著『うわさとは何か』など。

**平野真**(ひらのまこと)

早稲田大学総長室社会連携課長。'99早稲田大学社会科学部卒業。民間企業を経て、'05早稲田大学入職。'196月より募金担当課長。'229月より現職。

**曾根直樹**(そねなおき)

学校法人梅村学園中京大学学園事業推進部長。

**松井誠裕**(まついまさひろ)

駒澤大学学生支援センター。早稲田大学第一文学部卒業。

**重山直輝**(しげやまなおき)

学校法人青山学院学院連携本部部長。青山学院大学経済学部卒業。'86学校法人青山学院入職。女子短期大学、大学、法人大部を経て、'21より現職。

**黒坂光**(くろさかあきら)

京都産業大学学長、生命科学部教授。'86京都大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了。薬学博士。専門分野は生化学、分子生物学。

**金久保智哉**(かなくほともや)

READYFOR株式会社 大学・医療グループマネージャー。'16慶應義塾大学経済学部卒業(学士)。株式会社三井住友銀行を経て、'19より現職。

**佐々木哲夫**(ささきてつお)

学校法人宮城学院理事長・学院長・宗教総主事。'99アジア神学大学院「Ph.D.(神学博士)」。主著『命のファイル』(教文館2019年)。

**出口真紀子**(でぐちまきこ)

上智大学グローバル教育センター長・外国語学部教授。'06ボストンカレッジ人文科学大学院心理学科博士課程修了。博士(文化心理学)。監訳書に『真のダイバーシティをめざして』等。

**中戸 祐夫**(なかと さちお)

立命館大学国際部長、国際関係学部教授。

**早川 敦子**(はやかわ あつこ)

津田塾大学教学・国際担当副学長。英語英文学科教授。'82津田塾大学英文科卒業。'90同大学院博士課程満期退学。

**砂山 幸雄**(すなやま ゆきお)

愛知大学現代中国学部長・教授。'86東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。愛知県立大学を経て'03より愛知大学、'19より現職。

**田中 康仁**(たなか やすひと)

流通科学大学商学部マーケティング学科教授。'08神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了。博士(工学)。広島商船高等専門学校准教授等を経て、'23より現職。

**齋藤 知明**(さいとう ともあき)

大正大学客員准教授。'15大正大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。'23より現職のほか、山形県酒田市でコミュニティファンドマネージャーを務める。

**今村 圭**(いまむら けい)

京都産業大学外国語学部助教。'19浙江大

学人文学院博士課程単位取得満期退学。'22浙江大學博士(文学)取得。'22より現職。

**柴田 利男**(しばた としお)

京都橘大学総合心理学部長教授。'91同志社大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。'95北星学園大学、'19京都橘大学健康科学部に着任。'234月より現職。

**小谷 広美**(おだに ひろみ)

創価大学企画部企画広報課主任。'15創価大学教育学部児童教育学科卒業。学事部学事第2課を経て、'22より現職。

**宮崎 あかね**(みやざき あかね)

日本女子大学副学長・理学部化学生命科学研究科教授。東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。博士(学術)。'06から日本女子大学に着任。

**永田 佳之**(ながた よしゆき)

聖心女子大学現代教養学部教育学科教授。博士(教育学)(国際基督教大学)。グローバル共生研究所副所長、日本国際理解教育学会会長、(学)アジア学院理事・評議員等を兼務。

**東梅 貞義**(とうばい さいだよし)

'90国際基督教大学教養学部理学科卒業。'92工デインバラ大学大学院修了後、WFFジャパンに入局。自然保護室長、シニアダイレクターを歴任後、'20WFFジャパン事務局長に就任。

**川島 葵**(かわしま あおい)

上智大学文学部卒業。東海ラジオアナウンサーを経てフリーに。藤井聡太王位就位式や吉沢亮トークショー司会などで活躍。TBS Podcast「Voicy」番組も持つ。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

「大学教育における生成AIの活用に向けたチェックリスト(第1版)」を公表

私大連では、加盟大学が生成AIを適切に導入するための重要な項目を整理し、チェックリストとしてまとめました。

このチェックリストは、加盟大学自らの検討を促すことを目的に「大学が組織的に検討すべき事項」と「教員が個々の工夫で検討すべき事項」を区別し、具体的な検討項目を示しています。実際の運用は、各大学や教員の判断に委ね、状況に応じて項目の追加・削除などカスタマイズして活用することを想定しています。

生成AIを含む技術は日々進化し、大学教育への活用方法も変化することが考えられるため、適宜、情報を更新する予定です。

[https://www.shidairen.or.jp/topics\\_details/id=3891](https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3891)



会長の動き

● 7月5日(水)

私立大学団体連合会 第127回役員会・第92回総会に出席

● 7月18日(火)

第4回常務理事会、第4回理事会に出席

● 7月20日(木)

内閣府との打合せに出席

● 7月26日(水)

毎日新聞社「ポストコロナ大学教育」をテーマに取材

● 8月7日(月)

全私学連合 第288回代表者会議に出席

永岡文科大臣に令和6年度私学関係政府予算と税制改正要望書を手交

令和5年度第1回財務・人事担当理事者会議(ハイブリッド開催)



開催報告

● 7月18日(火)、19日(水)

令和5年度第1回財務・人事担当理事者会議(ハイブリッド開催)

● 7月24日(月)

私学法改正対応に関する情報交換会(対面開催)

● 8月4日(金)、8日(火)、10日(木)

令和5年度FD推進ワークショップ(オンライン開催)

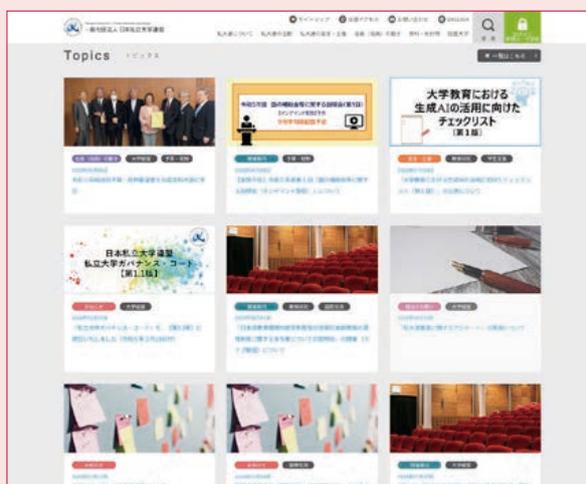
● 8月21日(月)

令和5年度監事会議(ハイブリッド開催)

● 8月28日(月)

令和5年度第1回学長会議(ハイブリッド開催)

▼各資料は、左記の私大連Webサイトをご覧ください。



私大連Webサイトにて各種活動に関する情報を公開



<https://www.shidairen.or.jp/>

**座談会** 「自然災害による被害を最小限にとどめるための  
防災対策と意識向上」

**特集** 「魅力度を高める学生食堂」

**小特集** 「コロナ禍を経た学生父母等組織ネットワークの今」

**だいがくのたから** 芝浦工業大学

**大学点描** 順天堂大学

**クローズアップ・インタビュー** 外池 大亮さん(元プロサッカー選手)

## 編集後記

◆厚生労働省の発表によると2022年の出生数は77万人と過去最少を更新し、日本中に大きな衝撃を与えた。国立社会保障・人口問題研究所が2017年に示した推計より11年早く80万人を割ることになり、急速に進行している少子化の現実を突きつけられたからだ。

私立学校において学納金は経営を支える最大の柱であり、入学定員の充足率に神経を尖らせる中、急激に進む少子化は脅威だ。私学が経営基盤を維持し、質の高い教育研究を展開するには、外部資金の獲得による寄付金募集の充実は必須であろう。

今号では1964年以来となる「寄付」の特集を組み、創意工夫を凝らした最新事例などを紹介した。近年注目を集めているクラウドファンディングでは、税制控除と協力会社への手数料の負担分に留意する必要があるとはいえ、教育機関の募金活動の活性化が今後、我が国の教育研究分野の発展に、ひいては世界の科学・文化の振興につながっていくことを期待している。  
〈広報・情報委員会大学時報分科会委員・明治大学経営企画部広報課長 野見山智道〉

◆留学生の受け入れ、派遣ともに完全にストップした新型コロナウイルス禍。前例のない事態の中で、大学の「国際化を止めない」ための様々な模索が進められ、オンラインを用いた各種オーダーメイド留学プログラムが誕生した。コロナ禍の経験を通して得られた

大きな知見の一つがオンラインの活用であることは、今回小特集にて執筆いただいた各大学の事例でも紹介されているとおりである。これらは、遠隔地の多様なコミュニケーションを可能とし、留学プログラムとしても優れた教育効果をもたらす一方で、現地における学生同士の対話や異文化体験といったリアルなふれあいを求める学生の強い思いを顕在化させるものもあつた。

2023年5月、コロナの5類への移行が決まり、留学生の受け入れ、派遣ともに、いよいよ再開元年を迎えることになった。コロナ禍が我々に問いかけてきたものとは何か、国際化とは何か。今回の小特集が今後の留学・国際化を見据える皆様の参考になれば幸いである。〈広報・情報委員会大学時報分科会委員・立命館大学総合企画

部広報課長立右健一

◆世界の生物多様性が過去50年で69%減少——数字に驚き、重みに打ちのめされる思いがした。この気持ちをくださったのが、WWFジャパン事務局長の東梅貞義さんである。

その東梅さんの進学・留学には、人との出会いが大きく関わっている。座談会においてはご出席の学長各位が、コミュニケーションや人との関わり的重要性について、改めて実感を込めて語られている。コロナ禍以降、各種企画において何度も繰り返されてきたことだが、大学での学びは学問、授業という形だけではなく、共に学ぶ学生同士の間にも生まれていることを感じる。

中でも印象に残ったのは、「感染から学生を守ることだけが大学の務めではないのだと実感」したという、篠原日本女子大学学長の座談会での言葉であった。コロナ禍がもたらしたものは、オンライン化・DX化の進展だけでなく、こうした気付きや学びでもある。コロナ禍の経験から大学自身も学び、変化している。〈日本私立大学連盟事務局 加賀崎奈美〉

# 一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覧

※ 大学名ABC順 / ※ } は同一学校法人 (123大学 令和5年9月20日現在)

愛知大学	関西大学	南山大学	園田学園女子大学
亜細亜大学	関西学院大学	日本大学	大正大学
青山学院大学	関東学園大学	日本女子大学	拓殖大学
跡見学園女子大学	関東学院大学	ノートルダム清心女子大学	天理大学
梅花女子大学	慶應義塾大学	大阪学院大学	東邦大学
文教大学	恵泉女学園大学	大阪医科薬科大学	東北学院大学
筑紫女学園大学	敬和学園大学	大阪女学院大学	東北公益文科大学
中京大学	神戸女学院大学	大谷大学	東海大学
中央大学	神戸海星女子学院大学	追手門学院大学	常磐大学
大東文化大学	皇學館大学	立教大学	東京医療保健大学
獨協大学	國學院大学	立正大学	東京女子大学
獨協医科大学	国際武道大学	立命館大学	東京女子医科大学
姫路獨協大学	国際基督教大学	立命館アジア太平洋大学	東京経済大学
同志社大学	駒澤大学	龍谷大学	東京国際大学
同志社女子大学	甲南大学	流通科学大学	東京農業大学
フェリス女学院大学	久留米大学	流通経済大学	東京情報大学
福岡大学	共立女子大学	西武文理大学	東京歯科大学
福岡女学院大学	京都産業大学	聖学院大学	東洋大学
福岡女学院看護大学	京都精華大学	成城大学	東洋英和女学院大学
学習院大学	京都橘大学	聖カタリナ大学	東洋学園大学
学習院女子大学	九州産業大学	成蹊大学	豊田工業大学
白鷗大学	松山大学	西南学院大学	津田塾大学
阪南大学	松山東雲女子大学	聖路加国際大学	和光大学
広島女学院大学	明治大学	清泉女子大学	早稲田大学
広島修道大学	明治学院大学	聖心女子大学	山梨英和大学
法政大学	宮城学院女子大学	専修大学	四日市大学
実践女子大学	桃山学院大学	石巻専修大学	四日市看護医療大学
上智大学	桃山学院教育大学	芝浦工業大学	
城西大学	武蔵大学	白百合女子大学	
城西国際大学	武蔵野大学	仙台白百合女子大学	
順天堂大学	武蔵野美術大学	昭和女子大学	
金沢星稜大学	名古屋学院大学	創価大学	

## 大学時報 University Current Review

2023/9月号

第72巻412号(通巻425号)

令和5年9月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 植木朝子(同志社大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館

電話 03-3262-8672 FAX 03-3262-4363

<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20

明治安田生命大阪梅田ビル3階

〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9

KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)

須藤智徳(法政大学多摩事務課課長)

中山映(上智大学学事局学事センター事務長)

依藤康正(関西大学総合企画室広報課長)

中谷良規(関西学院広報室企画広報課課長)

塩原良和(慶應義塾大学法学部教授)

野見山智道(明治大学経営企画部広報課長)

長野香(立教学院広報室長)

立岩健一(立命館大学総合企画部広報課長)

山田健太(専修大学文学部教授)

高橋慈海(大正大学ブランディングセンター長、広報部部长)

大谷奈緒子(東洋大学社会学部教授)

五十嵐俊也(津田塾大学経営企画課課長)

鈴木宏隆(早稲田大学総長室募金担当部長)

齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)

加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)

吉田匡孝(日本私立大学連盟事務局)

